

**令和8年度第2回宮崎県地方独立行政法人評価委員会
議事要旨**

1 開催日時 令和8年8月3日（月） 13：30～15：00

2 場 所 宮崎県立看護大学附属図書館2階 多目的ホール

3 出席委員 神奈川県立保健福祉大学教授 石原 美和（リモート参加）
※五十音順 宮崎県看護協会会長 久保 敦子
公認会計士 高妻 和寛
宮崎県医師会副会長 小牧 斎
宮崎大学理事補佐 伊達 紫

4 審議概要

議事（1）公立大学法人宮崎県立看護大学の令和7年度業務実績評価書案について
（項目別評価の大項目第1まで）
事務局から資料の説明を行い、委員質疑を行った。主な質疑は以下のとおり。

- | | |
|----------------|---|
| 【久保委員】 | 県内率について、看護師の目標50%以上、助産師の目標は80%以上とある。助産師80%確保というのは高い目標だと思うが、この目標設定の経緯はどのようなものか。 |
| 【医療政策課】 | 助産師課程（別科）は、基本的には県内で助産師として活躍したいという方を県内で受け入れ、修了後に県内の職場に戻っていただくという趣旨で設置されているため、この目標設定となっている。 |
| 【看護大学】 | 入学生には県内出身者や、県外の養成校から本県出身なので戻ってきた、という学生も多くいる。これまでは概ね80%以上をキープしてきた。少子化の中で、県内で助産師を募集している医療機関自体が限られているという厳しい就職状況も背景にあり、令和7年度は目標達成できなかったが、今年度はある程度回復が見込めるとは考えている。 |
| 【石原委員】 | 卒業時のディプロマ・ポリシー到達度が94.7%と非常に高い一方、採用側（医療機関）の満足度が76.8%と目標を下回っている。前回より大幅に改善した点は高く評価するが、自己評価と他者評価に乖離があることは教育改善上の重要情報と考える。この乖離要因を分析・検証し、改善につなげていくことを期待する。
次に、保健師課程について、国家試験合格率だけでなく課程の修了率も大事と考える。また、看護師国家試験合格率が低下した要因についても分析を行い、個別指導・学修支援体制の強化が必要と考える。最後に地域貢献について、個々の取組は素晴らしいと思う。一方で、学会報告件数等は目標を下回っているため、組織的な支援を強化してほしい。 |

【石原委員】	もう1点、先日の熊本地震に対する宮崎県からの迅速な災害支援（DMATや保健師、災害支援ナース）は非常に素晴らしかったと思う。そのようにしっかり災害対応も行っている中、都道府県別の看護職員の賃金について、宮崎は下から2番目とも聞く。県内就職率を向上させるには、大学だけでなく県、医療機関、大学が一体となって処遇の改善に取り組んでいく必要があると考える。
【小牧委員】	看護大学設立の趣旨からすれば、県内看護師の輩出は極めて重要である。法人化の際に50%という目標が設定されたとのことだが、経緯は。
【医療政策課】	法人化にあたって大学の目標を定める際、県内就職率も重要な項目とされたが、直近の県内就職率が50%に達していないというような状況もあったため、県の方で様々協議を行い、この50%という目標設定となった。
【高妻委員】	今回、自己評価Aが13に増となっており、県内就職率も46.9%と前年より大幅に改善している。経年比較すると今回「Ⅳ」に引き上げても良いのではないかと感じるが、事務局案が「Ⅲ」である理由を教えてください。
【医療政策課】	大学の努力により県内就職率は46.9%まで回復しており、一定の評価をしているが、助産師課程の就職率低下や、看護師国家試験合格率が前年度を下回ったこと等を総合的に判断し、事務局案としては「Ⅲ」とさせていただいた。最終的には、この委員会の中で御判断を仰ぎたい。
【高妻委員】	(他の委員に聴取、「Ⅲ」で問題ないという意見を受けて) 皆様も支持されるのであれば「Ⅲ」で異論はない。過去と比べてなぜ今回が「Ⅲ」なのかが後年分からなくならないよう、「判断理由」の欄に過去との比較や今回の判断理由についても明確に記述してほしい。
【伊達委員長】	今回、中期計画期間の3年目であり、残り3年ある。次への期待も込めて、評価委員会としては評価は「Ⅲ」とし、「判断理由」としてこれまでと比較して実績が伸びているところや、国家試験合格率・県内就職率等の今後の課題として考えられるところを評価結果に盛り込んでいただきたい。

議事（１）公立大学法人宮崎県立看護大学の令和７年度業務実績評価書案について

（項目別評価の大項目第２から第５、全体評価について）

事務局から資料の説明を行い、委員質疑を行った。主な質疑は以下のとおり。

- | | |
|---------|--|
| 【小牧委員】 | 財務内容関係で、県からの補助金が前年から増加しているようだが、詳細を教えてほしい。 |
| 【医療政策課】 | 補助金の増減については、主に「長寿命化計画」に基づく大学施設の老朽化に伴う段階的な改修費用等が影響している。一気に大きな修繕費が発生しないよう計画的に取り組んでいることによる増減であり、際限なく増やすわけではなく、必要な分を都度精査して補助している。 |
| 【久保委員】 | ５ページに「定型的な業務を正職員から非常勤職員に一部移移管する」とあるが、これは非常勤職員を新たに雇い入れたのか、元々居る人員の中で整理したのかどちらか。 |
| 【看護大学】 | 新たに雇用を増やしたわけではなく、従前から勤務いただいている非常勤職員の方が業務に慣れてこられたため、その習熟に伴い、正職員が抱える過度な業務負担を軽減する観点から業務を一部移管し、平準化を図ったものである。 |
| 【久保委員】 | 非常勤職員の方が力をつけて仕事を任せられるようになったのは大変素晴らしい。一方で、他の職場では「せっかく慣れた頃に有期雇用のため辞めざるを得ない」というもったいない事例が多々ある。看護大の方ではどのような状況か。 |
| 【看護大学】 | 本学でも有期限で雇用しているため、そのような状況・課題がある。大学の安定的な運営のために、非常勤職員の皆様の力は極めて重要と認識しているため、人材確保における雇用のあり方やプロパー化については、重要な課題として今後も検討を進めてまいりたい。 |
| 【高妻委員】 | 財務内容に関する評価については昨年度の「Ⅳ」から「Ⅲ」へ引き下げられたとのことだが、引き下げの理由が文面から伝わりにくいように感じる。物価高騰や金利上昇といった社会情勢の変化を踏まえたものであり、より効率的・効果的な資産の有効活用に期待してということであれば、その文言を評価書の中に盛り込んでほしい。 |
| 【伊達委員長】 | 本日は様々な御意見いただき感謝する。評価区分の変更はないが、意見や提案のあった事項については、評価書に追加してもらいたい。 |

議論した内容に基づいて評価書案を修正すること、修正した評価書の確認は委員長に一任することについて委員長より各委員に確認し、了承。